

第4回エコエリアやまがた推進コンクール  
最優秀賞（山形県知事賞）

※掲載している情報は平成21年度時点のものです。

名 称	上和田有機米生産組合
所 在 地	高畠町

1. 取組の背景・経過等

高畠町の南東部に位置する和田地区に、1986年「生産組合」を発足。

「食」の本質の追及と地域環境保全、生産者と消費者の提携による主体的な流通と都市と農村の交流、中山間地農業の自立などを目標にスタートする。

その後、時代とともに「安全・安心な食」へのニーズが加速し、着実に栽培面積及び生産量が拡大しており、その結果、現在の組合員数は59名、栽培面積は平成17年に47.8haだったものが現在は68.2haとなっている。

また、平成11年度から開催されている「全国・米食味分析鑑定コンクール」において、最高賞である総合部門「金賞」を連続5回、通算6回受賞しており、安全・安心はもちろん、美味しい「食」へのこだわりも証明されている。

2. 農業経営・技術と取組姿勢

(1) 環境に配慮した農業技術の実践と工夫

自然環境に負荷を与える「農薬」及び「化学肥料」の不使用による栽培、もしくは極力削減した栽培を行っている。

① 「完全無農薬栽培」(JAS認定を含む)

生育期間に農薬及び化学肥料を一切使用しない。

② 「少農薬栽培」

生育初期に一回のみ「除草剤」を使用、その他は無農薬栽培に準ずる。

(2) 家畜排せつ物、稲わら、食品残さ、農業用使用済プラスチック等のリサイクル利用の実践と工夫

高畠町は以前より「酪農」が盛んに営まれており、そこから排出される「堆肥」を利用し「土づくり」を実施し、畜産農家と耕種農家連携による「地域循環型農業」を実践している。

(3) 温室効果ガスの排出の抑制等を含む先進的な環境保全型の農業の実践と工夫

収穫期において、化石燃料の使用を抑えるため「自然杭かけ乾燥」及び「遠赤外線乾燥機」の使用を義務付け、地球温暖化防止に努めている。

(4) 持続的な環境保全型農業の実践と経営確立

「無農薬栽培」において、除草の過重労働を抑えるため、「アイガモ農法」「紙マルチ栽培」及び、動力除草機の導入を図っている。

経営的には、消費者及び取引業者との話し合いによる価格設定を行い、付加価値による有利販売を実現し、流通経済の削減と農家所得の安定向上に努めている。

また、平成13年に、組合員全員が山形県の「エコファーマー認定」を取得している。

### 3. 周辺等への影響力・普及力

#### (1) 創造性・地域的な影響力

- ・組合オリジナルの「有機肥料」を設計、委託製造し使用している。また、食味向上を目的にした「ミネラル肥料」の開発も実現した。
- ・一般的に販売されている「遠赤外線籾乾燥機」のモデル開発を行った。
- ・町及び地域における「環境保全型農業」の推進を目的に、町内から大型ヘリによる農薬の空中散布廃止活動の取組を行い、平成 17 年に廃止が実現した。



(オリジナル有機肥料)



(ミネラル肥料)

#### (2) 消費者等との交流、食農教育、環境教育への参画等を通じた地域の活性化と地域社会発展への貢献

- ・消費者との相互交流を援農、農作業体験、生協まつり等を通じ、行っている。
- ・地元の「町立和田小学校」において、田植え、除草、稲刈り等の農業体験を通じ、食農教育を継続的に実践している。
- ・県立高島高校からの依頼を受け、「いのち耕す体験」をテーマに農作業体験の受け入れを行っている。
- ・大学においては、立教大学の「環境と生命・フィールドワーク」受け入れを手始めに、東京農業大学、早稲田大学、慶応大学、明治大学の環境問題に関わる多数のゼミ受け入れを行っている。
- ・組合員の女性部で構成する生活班の活動において、郷土料理の講習会、地場農産物による農産加工、石けん運動、農産物直売所の開設等により、地域はもちろん、都市との交流を活発に行っている。

#### (3) 地域の農業資源保全と活性化

- ・経営及び圃場の大規模化が困難な中山間においても、有機農業や複合経営の導入によって経営の確立を図り、耕作放棄地や生活基盤の崩壊を極力防止することに一定の貢献を果たしている。
- ・米価下落傾向の中で一定の「保証価格」を実現し、農家経営の安定に努めている。
- ・加工業者と連携し、「有機米」を原料とした純米酒、玄米麺、菓子等様々な加工品製造に貢献している。

#### 4. その他特記事項

- ・「水田・環境鑑定士」による「環境・特A」を平成17年6月に取得する。
- ・「田んぼの生きもの調査」資格講習会に参加し、資格取得を目指している。
- ・生協・消費者グループ・百貨店・スーパー・米屋・レストラン・通信販売等約60箇所の取引先を開拓し、自主販売と更なる販路拡大に努めている。
- ・山形県のアンテナショップ（東京・銀座）において、出品販売を行っている。
- ・映像部門で、取り組みや地域の特性等が発信されている。
  - ①アニメ映画「おもいでぼろぼろ」
  - ②映画「いのち耕す人々」
  - ③TV番組「カンブリア宮殿」（テレビ東京）
  - ④TV番組「ETV特集」（NHK・教育）
  - ⑤TV番組「プレミアム8紀行・コメ食う人々」（NHK・BS）
- ・その他、様々な「雑誌」や「新聞」等でその取り組みが紹介されている。

#### 5. 取組の成果と展望

組合発足から約23年が経過し、環境保全型農業への取り組み効果として、河川の水質が改善され、水中生物やホタル等の昆虫、小動物等が増加している現状から、確実に地域の自然環境が守られ、そして育まれている。

また、米価の落下等、小規模・中山間地農業の存続が危ぶまれる中で、その地域活性化が図られ、農産物の生産から加工・流通・販売までの一貫した自主管理を実現し、更に農業後継者の組織化と生産意欲の向上、加工業者、販売店等との協力による「農商工連携」が達成できた。

今後も地域における「環境保全型農業」の更なる推進に組織を上げて取り組み、地域環境の保全、地域農業の維持・発展、農村文化の継承など、「ふるさとづくり」の実現を目指す。